

第6学年2組 情報教育学習指導案

授業者 川崎市立旭町小学校 加藤 裕子

1. 日時 平成20年7月2日(水) 13:40~14:25

2. 場所 パソコンルーム

3. 単元名 ICT活用を学ぼう ~効果的なレイアウトを考えよう~

4. 単元目標

効果的な表現を目指し、分かりやすいレイアウトを考え、資料の配置や書き方を工夫する。

5. 評価規準

- 受け手にとって分かりやすい構成になるように、字の大きさや色を変えたり、枠組みの仕方を工夫したりすることができる。
- 枠の移動、色や大きさの変え方などの簡単な操作の仕方を試している。

6. 単元について

(1) 児童の実態

ICT機器を活用した授業をすると、いつも新鮮で好意的な反応をする子どもたちである。IT活用教育支援ソフト(スカイメニュー)を使った授業には慣れていて、画面送信やWebページの送信、ポケットの機能について理解している。1人1台のコンピュータを使うことにも積極的で、操作の仕方が分からないときには友だちと教えあいながら取り組んでいる。本校の情報教育の年間活動計画では、今まで学習してきた操作技能や知識を生かして、個々の課題に取り組むことが6学年の目標であるが、「文字入力が思うようにできない。」「枠の大きさを変えられない。」などの実態があり、自分の思いを表現するには、まだ十分に経験できていないところがある。

文字を書いたり、絵を描いたりすることが苦手な児童がいる。考えている内容は素晴らしいのに、手作業で表現することが苦手なために活動を止めてしまったり、十分な満足感を得られなかったりする児童にとって、コンピュータを活用する選択肢を用意することは有効な手立てになると考えた。

(2) 単元設定の理由

高学年になると、コンピュータを活用した学習が増えてくる。情報教育はさまざまな教科の学習の中で行われているためである。本校の指導計画では、新たな操作を学んだり、今までに学んだ操作を復習したりする時間や、情報モラルについて学ぶ時間を情報教育の時間として15時間とり、年間活動計画に従って指導している。本時で行う学習は、年間活動計画の4つ目の学習活動「効果的なレイアウトを考えよう」である。

この活動は、これから学習する国語「ガイドブックを作ろう」や社会科「歴史新聞をつく

ろう」などさまざまな学習のまとめの場面で生かすことができる。ここでレイアウトについてゆっくりと時間をかけ指導することは、子どもたちのまとめをよりよいものにする力をつけることができるであろう。

本時で特に指導したい目標は、「一番伝えたいことを一番目立つ場所に大きく表現すること」である。そのための効果的なレイアウトの工夫としては、次のものが挙げられる。

(1) 見出しの工夫

読み手に読もうとする意欲を起こさせるためには、読み手をひきつける見出しが重要である。言葉を工夫するやり方もあるが、ここでは、見出しの文字やデザインを工夫するというやり方に重点をおき指導したい。

(2) 文字の大きさや色

読み手をひきつけるためには、読みやすい記事の工夫をすることも大切である。字の大きさや色の使い方を工夫して、重要なところを示したり、名前を強調したりすることができるようにしたい。

(3) イラストや写真の使用

文字が並んでいるだけでは、読み手にも伝わりづらい。写真などを使って視覚にも訴えることで記事の内容がより伝わりやすくなると考える。記事に関連した写真やイラストを適切に配置できるようにしたい。

また、本時では、児童が実際に操作してみる時間を持ちたいと考えた。何度も繰り返して試すことができるコンピュータの特性を生かして、自分の工夫は本当に効果的なのかを見ながら取り組むことは、ねらいを達成するための有効な手段であると考えた。本単元で学ぶ効果的なレイアウトは、各教科の新聞作り、文集作りなどにも応用ができる。本時のようにコンピュータを使わず、手作業で行う際にも使える知識である。

下書き段階の新聞のデータを配布し、ポケットの素材集などを利用しながら、よりわかりやすい新聞に仕上げられるようにしたい。そのために、次の操作を提示したい。

- ・ 字の色や大きさの変更
- ・ 飾り文字の書き方
- ・ 図やイラストの挿入の仕方
- ・ 枠の作り方

本校のパソコンルームには、一昨年度に40台の児童用コンピュータとIT活用教育支援ソフト（スカイメニュー）、児童用統合ソフト（キューブきつず2）が導入された。本時はその中でも、キューブきつず2のワープロ機能を用いて、レイアウトについて指導したい。

7. 研究会テーマとの関連

○研究の背景 ～ 私たちを取り巻く社会との関わり ～

高速通信網の整備や携帯電話の普及に伴って、子どもたちの生活の中にも携帯電話のメールや携帯サイト、インターネットのメールや掲示板、チャットなどが入り込んでいる。このような状況の中で、メールの書き込みなどをめぐるトラブルも報告され、現在の『情報教育』においては「情報活用の実践力」に限らず、「情報社会に参画する態度」や「情報の科学的な理解」の育成までもが小学校段階から要求されるようになってきた。

文部科学省は、平成20年3月28日に学習指導要領を改訂し、総則や各教科において次のように太字アンダーライン部分を加えられた。

小学校総則：各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的操作や情報モラルを身につけ、適切に活用できるようにさせるための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用をはかること

国語：児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるように工夫すること。

ローマ字指導：情報機器の活用や他の学習活動との関連を考慮。現行の4学年から3学年に移行。

社会：学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、資料の収集・活用・整理などを行うこと。

〔第5学年〕情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

算数：数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするため、必要な場面においてコンピュータの等を適切に活用すること。

理科：観察、実験、栽培、飼育およびものづくりの指導については、指導内容に応じてコンピュータ、視聴覚機器などを適切に活用できるようにすること。

道徳：児童の発達の段階や特性等を考慮し、道徳の内容との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導に留意する。

外国語：CD、DVDなどの児童、学校および地域の実態を考慮した適切な視聴覚教材を積極的に活用する。

総合的な学習の時間：情報に関する学習を行う際には、問題の解決や探求活動に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。

このように、小学校では、コンピュータや映像視聴覚機器の積極的活用が、各教科においてもより求められることとなった。そして、それらを通して情報機器の基本的な操作の習得や情報モラルなどに関わる指導の充実が求められている。本研究会においても、これらを受けて「教育の情報化」を日常的な授業や学校生活を通して実現する研究活動を目指していく。

○私たちの目指す川崎の情報教育

川崎市の小学校教育において、子どもたちは、教室のTV番組視聴だけでなく、必要な時にコンピュータールームからインターネットを使って多種多様の動画コンテンツを見ることが可能となり、ネットワークを用いた交流やウェブページを使った発信なども行われている。また、学区探検や地域学習する

際には、デジタルカメラやビデオカメラを持って取材し、そのデータを加工して印刷したり、プレゼンテーションソフトを用いて発表したりすることもめずらしくなってきた。

また今後、ネットデイ方式による校内LANの整備が進められ、各学級に1台ずつのパソコンとプロジェクターの配備が予定されている。これにより、学習指導要領の改訂も受けて、これらのICT機器は特別な道具ではなく、黒板や定規など、ふだんの授業で使用している学習道具の一つとしてより日常的に使われ、様々な教科の中での情報教育がより日常的に行われることになる。そこで、今年度の研究テーマを昨年度に引き続き

自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして

～メディア活用で伸ばす確かな学力～

と設定した。

わたしたちの考える「川崎の情報教育」では、ICT機器の活用だけに限定せず、今までの研究や研修で培ってきた「図書資料」の検索や活用、情報の取捨選択の能力の育成、情報化社会に参画する態度も含め、広い意味での「情報教育」としてとらえている。子どもたちが自ら学ぶ力をつけるためには、教科の内外におけるさまざまな活動を通して、メディアの特性を知り、多くのメディアから必要な情報を取捨選択し、加工したり表現したりしていく中で情報活用能力が育成され、確かな学力の育成につながると考えるためである。

さらに、情報機器によるコミュニケーションの発達した現代に対応するために、社会で得られた情報をもとに生き生きと想像したり、ルールを守って発信したり、相手意識を持って受け取ったりする「豊かな心」を大切に育てていきたいと考える。昨今情報モラルの教育の必要性が大きく取り上げられているように、メディアの利用には負の側面も存在しているが、情報モラルを育成する授業を行ったり、すばらしい図書資料を読んだり、入念に作られたすばらしい映像作品に触れたり、そこから得られた感動を感想文や感想画、映像作品として表出したりすることが子どもたちの「豊かな心を育てる」ことにつながると考え、「メディアを通して心を動かす」という活動を組み込むことを大切にして、授業研究を進めている。

今回のテーマ「ICT活用で確かな学力をつけよう」

○今回の授業研究 ～ 情報教育を広める～ 『ICT活用で確かな学力をつけよう』

今回の授業研究会では、昨年度すでに80校に整備され、今年度中に川崎市内のすべての学校に整備されるコンピュータシステム等を用いることを中心として、情報教育をわかりやすく、気軽に実践するための授業を提案する。特に、日常の授業の中で情報機器や映像視聴覚機器(=ICT機器)の活用をしながら、「わかる授業」や「確かな学力」の育成をめざした日常的な授業研究を提案する。

今回の授業では、総合的な時間で行われる情報教育の場面を特に取り上げている。授業ではコンピュータを使って、新聞などの効果的なレイアウトを考える活動をする。紙の上では、写真の大きさや文字の配置をかえたりすることは容易ではないが、コンピュータの画面の上では、読み手を意識して効果的なレイアウトを考え、記事の配置をかえることができる。国語の教科書には「項目ごとにページの割り付けを考え」ることが載せられているが、これを実際に画面上で操作することで、「レイアウトを変えらるとはどういう事なのか」を視覚的に実感をもって捉えさせることができるのである。また、それと同

時に、子どもたちは機器の操作を学びながら、表現する力も高めていくであろう。

さらに、この授業で身につけたレイアウトを考え、工夫する力は、国語のまとめ学習や社会科や理科の新聞づくりなど、さまざまな教科の学習に役立てられる内容である上、学校生活だけでなく、今後のさまざまな場面でも用いられる大切な力であると考えます。

コンピュータ室にはこうした授業を支えるために、学習支援ソフトが導入されている。先生がわかりやすく指導するのに役立つだけでなく、子どもたちの操作を容易にしたり、子どもどうしの学習の交流をするのに役立ったりと様々な使い方が可能である。今回の授業では、このシステムを有効に活用する方法や、コンピュータ室での学習場面におけるICT機器の効果的な活用方法についても具体的に提案する。

8. 年間活動計画（全15時間扱い）

ICT 活用を学ぼう			
時期	時数	主な学習活動	ICT を活用した単元
4月	1	<u>携帯電話について学ぼう</u> 外部講師による講習 ※KDD I 共済会	
5月	2	<u>町の写真を撮ろう</u> ○デジタルカメラで好きな場所の写真を撮る。 ○写真を選び、印刷する。	図工 「わたしの町を描こう」
6月	3	<u>インターネットで調べよう</u> ○センターのホームページから必要な情報を選択し、閲覧する。	総合 「チャレンジしよう I ～鎌倉校外学習～」
7月	1	<u>効果的なレイアウトを考えよう</u> ※本時 ○レイアウトを変えるための操作の仕方を知る。 ○分かりやすい構成を考え、地図や絵、文章の配置や書き方を工夫する。	社会科 「歴史新聞を作ろう」 国語 「ガイドブックを作ろう」
9月	1	<u>写真を取り込んでみよう</u> ○必要な画像を選択して、ポケットに保存 ○画像の編集をして、文書に貼り付ける。	理科・単元のまとめ
10月	2	<u>掲示板ってどんなもの？</u> ○掲示板について知り、書き込みの体験をする。 ○悪質な書き込みがあった場合の対処法を考える。	
11月	3	<u>キーワード検索をしよう</u> ○キーワード検索の仕方を知る。	総合 「チャレンジしよう II ～日光修学旅行～」
12月	2	<u>感謝の気持ちを伝えよう</u> ○写真を取り込み、カードを作る。	

9. 本時

(1) 目標

- ・ 分かりやすい構成を考え、見出しの文字や写真の配置を工夫する。
- ・ レイアウトを変えるための操作の仕方を知る。

(2) 展開

活動内容と予想される児童の反応	支援	I C T機器について
<p>1. 下書きの新聞を見て、どうしたら筆者の意図が伝わりやすくなるかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見出しを工夫する。 ・ 文字の大きさや色を工夫する。 ・ イラストや写真の大きさや配置を工夫する。 	<p>○下書きの新聞で伝えたいことをはっきり意識させる。</p> <p>○効果的なレイアウトの工夫を整理して板書する。</p> <p>○話し合いで出た意見に合わせて操作する。</p>	<p>画面転送する。 (教師機→生徒機)</p> <p>※資料1(その1) マーキング ※資料2</p> <p>○話し合いによって変わった新聞をプロジェクタで提示しておく。</p>
<p>言いたいことが伝わる新聞を作ろう</p>		
<p>2. キューブきっず2のメニュー画面上のポケットからファイルを開き、新聞のレイアウトを確認する。</p> <p>3. 自分で操作し、レイアウトを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 字の大きさや色を変えたい。 ・ 絵を入れたい。 ・ 飾り文字を書きたい。 ・ 新しい枠を作りたい。 <p>4. 学習のまとめをし、感想を書く。</p>	<p>○プロジェクターで投影されたメニュー画面を見せて、ポケットの場所を伝える。</p> <p>○資料の4つの記事の中で最も強調したい記事を意識させる。</p> <p>○操作の仕方をホワイトボードに提示する。</p> <p>○良い工夫をしている児童を取り上げる。</p>	<p>ポケットからファイルを取り出す。</p> <p>※資料3</p> <p>画面転送する。 (生徒機→生徒機)</p> <p>※資料1(その2)</p>